

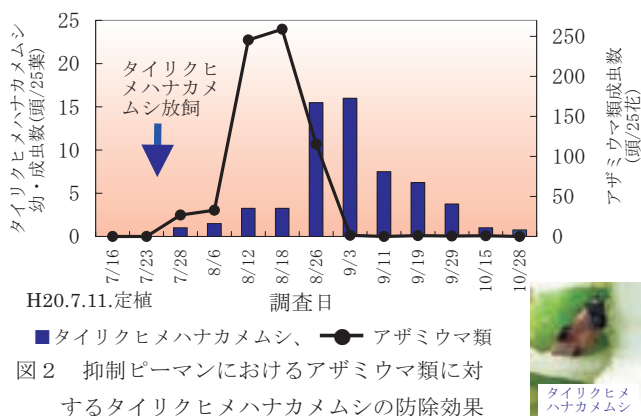
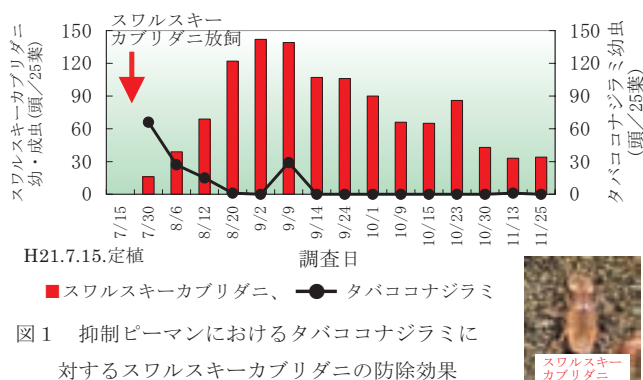
# 抑制及び半促成ピーマンにおける 天敵を主体とした防除体系

施設栽培ピーマンでは、タバココナジラミやアザミウマ類などの害虫が問題になります。抑制ピーマンと半促成ピーマンでは、スワルスキーカブリダニやタイリクヒメハナカメムシなどの天敵を栽培初期に使うと、これらの害虫を実害のない程度に抑えることができます。また、アブラムシ類やハダニ類の発生初期に、コレマンアブラバチやミヤコカブリダニなどの天敵を使用すると効果的です。

## スワルスキーカブリダニのタバココナジラミに対する防除効果

スワルスキーカブリダニは、栽培初期のタバココナジラミの発生が少ない時期に放飼すると、タバココナジラミとピーマンの花粉の両方を餌として増殖し、タバココナジラミの発生を抑えます。

放飼時期は、抑制ピーマンでは定植2週間後が、また半促成ピーマンでは定植3週間後が目安です。



## タイリクヒメハナカメムシのアザミウマ類に対する防除効果

タイリクヒメハナカメムシは、開花初期のアザミウマ類の発生が少ない時期に放飼すると、アザミウマ類と花粉の両方を餌として増殖し、アザミウマ類の発生を抑えます。

放飼時期の目安がスワルスキーカブリダニと同じであるため、同時に放飼作業を行うことができ省力的です。

## ピーマンにおける天敵主体の防除体系

抑制及び半促成ピーマンで、スワルスキーカブリダニ及びタイリクヒメハナカメムシを生育初期に放飼し、その後、アブラムシ類やハダニ類の発生初期にコレマンアブラバチやミヤコカブリダニなどを放飼することにより、ピーマンに発生する主要な微小害虫を防除することができます。

